

# 平成 29 年度 横浜市加賀原地域ケアプラザ事業報告書

## ■ 施設名

横浜市加賀原地域ケアプラザ

## ■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、事業実施評価との共通部分

### 1 全事業共通

#### (1) 地域の現状と課題について

加賀原地域ケアプラザが担当する、佐江戸加賀原地区、池辺連合地区、川和連合地区は、川和町や池辺町、佐江戸のような何世代にも渡り長く住民が暮らす地域がある一方で、加賀原や富士見ヶ丘、二の丸のように港北ニュータウンの発展と共に転居してきた住民も多く、古くからの伝統や習慣が受け継がれつつ、新たな文化や息吹も入り混じった新旧の特性を持ち合わせた地域となっております。そのような地域性を背景に、自治会・町内会の加入率を含め、つながりの深浅に地域、世代によって大きく差があります。また、横浜市街からの転入者も多く、「地域ケアプラザ」がどのような機関であるかが十分に理解、把握されておらず、相談の遅延や利用手段・方法の周知が不足していることも事実です。

地域全体では、丘陵地帯に位置した町であり、急な坂道や階段、狭い道路等も少なくなく、一部では十分な歩道区間が確保できていない、交通の便が悪いなど高齢者、障害者にはアクセスの悪い地域、環境もあります。

加賀原地域ケアプラザも例外ではなく、地域の高台に位置しており、公共交通機関の利便性が低いのが実状です。

横浜市内では最も平均年齢が低い都筑区ではありますが、その中では比較的、川和町や池辺町の平均年齢は高く、近年独居世帯や高齢者世帯も増加傾向にあります。

また、地域の公共交通機関の利便性の低さを改善するために、平成 29 年度より池辺連合地区は都田連合地区と連携し、ボランティアバスの実現に至りました。

#### 【課題】

- ①各地域性を考慮（特に交通の便を考慮した）集い等の交流の場、相談窓口設置等が必要。
- ②地域の顔の見える関係づくりを目指したネットワーク作り。
- ③あらゆる世代の相談機関である「地域ケアプラザ」の周知と、情報伝達・必要な人に必要な支援が届く体制づくり。
- ④子育て支援を中心とした若い世代への支援展開。
- ⑤高齢者がいつまでも元気で活躍できる場づくり（介護予防事業やボランティア等の支え合い・生きがいづくり）。

このような地域特性に対し、地域包括支援センターを中心に、「待つ地域ケアプラザ」ではなく「フットワークのいい地域ケアプラザ」をモットーに、積極的なアウトリーチ支援を行います。住み慣れた地域で元気に末永く暮らしていける地域づくりを目指しております。

## (2) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

高齢者の介護予防支援としてバランス講座の開催。その参加者への相談支援・助言を行い、継続的に地域で自立した日々が送れるように支援を実施いたしました。

毎月200件近くの相談支援をしてきました。その結果、平成29年2月頃と比較して3倍～4倍増加しました。

地域に出向き、ケアプラザの業務内容立地条件の悪い加賀原地域ケアプラザに来られない方が多い為に、自宅への訪問を重視してきました。自宅の暮らしぶりを見て、今後の支援を提案し、安心して生活できる在宅生活の継続に繋げております。

池辺地区では月に一度、出張相談を開催しております。開催以降、少しずつ周知はされているが、池辺は直接連絡を受け自宅へ赴く場合が多いようです。池辺地区では地域住民・事業所と連携し、大型ショッピングセンター「ららぽーと横浜」にてイベントを開催することにより、加賀原地域ケアプラザの周知を行うことができました。また川和地区、佐江戸加賀原地区でも老人会や地区社会福祉協議会のイベントや会合等で認知症講座や、認知症サポーター養成講座を開催いたしました。

相談に対し、適切に関係機関に繋げることに従事する一方、必要に応じ、主任児童委員等の連携しケースへの対応にあたっております。

## (3) 各事業の連携

自治会、地区社協、民生委員、老人会、各種ボランティア団体等の会合や集いに参加し、地域情報やニーズの把握に努め、そこから抽出された地域課題の解決や住民ニーズの充足を目指す事業展開を実施してきました。

具体的な取り組みとして、「佐江戸加賀原ちよこっとボランティア」や「川和ふれあいたい」の活動がより活性化し、見守りや支援を必要とする人が同ボランティア団体の活動に繋がるように、定例会の参加をすることでの意見交換や、より団体の周知が広がるように薬局やコンビニエンスストア、酒屋、郵便局等々にチラシへの配布や掲示依頼、ケアマネジャーへの情報提供等を実施。同時にケアマネジャー等からは同団体への要望や意見集約を行い、同ボランティア団体にフィードバックしてきました。

事業所内でも、各部署の業務での効率的な連携を目指し、適宜、会議を通じ、地域情報の共有や、事業連携の打ち合わせの機会を設けました。

その成果として「ららぽーと横浜」でのイベントや、「川和コミハウス健康フェスタ」、「駅弁を食べよう」イベントなど、部署間で連携をして事業の開催にりました。

事務所内の伝達・報告・情報共・業務体制については、部署のスタッフが必ず一人以上出勤しているシフト体制を組み、不在時には伝達が効率よく行えるように伝言ボックスやスタッフスケジュール表の更新などを実施しております。

## (4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

各部署のスタッフが極力一名以上出勤できるシフトを組み、各部門の相談や対応が滞留しないように取り組んできました。

法人内の地域包括支援センター各職種分科会や、居宅介護支援事業所ケアマネジャー連携会議を開催し、職員の指導・育成や、専門職種間の意見交換・情報共有、業務への不安、悩みの払拭等々を行うことで、各職種のスキルアップや業務の効率化を促進してきました。

他地域ケアプラザや他事業所、地域で実施している事業やイベントに視察・見学することで、入手した情報を自事業所の事業や活動に反映し、事業の充実を目指してきました。

地域包括支援センターとして、委託やサービスの依頼が一部の事業所に偏らないように、ミーティング等を通じ、包括3職種の各個の依頼先等を共有しております。

医療職が欠員している状況に対しては、主任ケアマネジャー2名の内、1名が保健師業務代行を担うなど、チームで協力しながら職員欠員の状況を補完して業務を

実施してきました。

事業所内の職員育成に関しては、新人の社会福祉士やケアマネジャーに対し、総合相談を想定したロールプレイングトレーニングや、個別指導を実施。同行訪問やサービス担当者会議等にベテランの主任ケアマネジャーが同席し、相談援助技術やケアマネジメントの指導を実施してきました。

また、法人内の地域包括支援センター5か所、居宅介護支援事業所5か所がそれぞれ、職種ごとに集まり連携会議を実施することで、法人間でのスーパーヴィジョンや、意見交換、情報共有、職種ごとの悩み・不安の払拭や、業務の効率化、法令順守の意識向上等の協議・交流の場を設け、スタッフの研鑽と育成を促進してきました。

平成30年1月15日付で生活支援コーディネーターが退職したが、平成30年3月1日より後任を配置。また長らく欠員していた地域包括支援センターの保健師も平成30年4月1日より配置予定済みです。

#### (5) 地域福祉保健のネットワーク構築

各地区の民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会定例会等を含めた各種団体の会合に出席し、地域との顔の見える関係性をより深めてきました。

また、地域に貢献したい、関係性を深めたい薬局やグループホームなど、医療・介護事業者や民間企業・事業所のニーズの把握に努め、一方で場所の提供や協力を希望する各種団体とのコーディネートを加賀原地域ケアプラザが担った。具体例として地域への貢献を望んでいる病院、医療・介護サービス事業者と、協力や支援を求める老人会等を摺合せし、主催しているサロン等に講師の派遣や講座を開催ための仲介を実施。また、地域との関わり・つながりを深めたい薬局と、より多くの人を見守っていききたい見守りボランティア団体を繋げ、広報活動の充実や事業の連携ができるようにコーディネートしてきました。また、見守り活動ボランティア団体や生活支援ボランティア団体の活動がより充実できるようにケアマネジャーや介護・福祉関係機関に随時情報の発信をすることで、必要な支援の情報発信を支援することで、支援を求める対象者が情報を受信できるようにするなど、地域でのネットワーク構築の為の後方支援に従事してきました。

具体的な取り組みとして、都田小コミュニティハウス主催「池辺健康フェア（7/1）」の開催の為の企画や人的・物的協力と、サービス事業者等への周知・後方支援をしました。

また、都筑が丘老人クラブ茶話会「つづき亭」において、介護予防事業の講師の依頼を受け、民間事業所の講師仲介や、地域包括支援センター職員によるコグニサイズを実施（5/21）いたしました。

さらに、川和連合地区にて、（社）日本鉄道構内営業中央会の協力による駅弁の会食会を実施。地域の要望を受け、5か所に分かれての開催をいたしました。川和地区社会福祉協議会と連携し、150名近くの方にご参加いただきました。

他にも、毎月、各地区の民生委員児童委員協議会に地域包括支援センター職員が出席し、地域情報の把握や、個別ケースの相談等に対応してきました。平成29年度後期には、川和、佐江戸加賀原、池辺それぞれの地域で「ケアマネジャーと民生委員の意見交換会」を開催に至りました。

地域の防災拠点運営員会や訓練に参加することで、地域の防災への取り組みの把握や、顔の見える関係づくりを目指してまいりました。

## (6) 区行政との協働

個別ケースにおいては、高齢者虐待ケース等において、地域包括支援センター職員が区役所社会福祉職、保健師と連携し、状況の改善に向けて支援を行ってきました。また、社会福祉職との連携により、地域に住む障害者への成年後見制度利用に向けた支援を行うことにより、地域で独居生活が継続できております。

高齢者以外の相談に際しても、各関係部署と密に連携を取りながら、適切な支援に繋げております。

都筑区役所、都筑区社会福祉協議会と協同し、地区懇談会や地区ヒアリング等に出席しながら地域福祉保健計画に沿った町づくり、地域づくりに取り組んできました。

シニア☆スターの企画、打ち合わせ、講座への誘致をすることで、地域づくりの担い手づくりに尽力してきました。

## 2 地域活動交流事業

### (1) 自主企画事業

高齢者サロンをイベント主体からおしゃべりサロンに変更したことで、参加者と話す機会が増え継続的に参加してくれる人も増えてきております。

子育て支援事業は、出入り自由なあそびの広場に変更し開催してきました。お母さん同士がおしゃべりする時間が増えたことで参加者も多く、地域の交流の場となっている。障害児・者余暇活動は、地域の作業所、小中学校の個別級へチラシを配付し周知を行った。新規参加者も増え継続的な参加につながり地域の交流の場となっております。文化祭の作品をボランティアの人と作り出展いたしました。

夏休みに小学生向けの事業を開催しました。小学校、はまっこ等へチラシ、ポスターの掲示を依頼し、延べ57名の親子に参加していただきました。

「ららぽーと横浜で地域のみなさんとふれあいタイム」を開催しました。147名の方がワークショップに参加していただきました。ケアプラザの冊子、自主事業の紹介をパネル展示したことで通行人の方も足を止め興味を持って読んでいる人も多くおり、ケアプラザを知らない人への周知を幅広く行いました。

30～50代向けの講座を開催してほしいとの要望よりパン教室、フラワーアレンジメント教室を開催しました。パン教室は11月より自主化いたしました。平均年齢45才位で若い世代の利用が増えました。フラワーアレンジメントは3月から自主化いたしました。麻雀サークルも自主事業より自主化いたしました。

父親育児教室は、悪天候もあり、前日にキャンセルも相次いだために参加者が集まらず開催を中止しました。

継続的な参加者が増えたことにより、地域の声を聴く機会も増えニーズの把握もできてきております。貸館団体への紹介等へもつながっている。若い世代の利用者も増加しております。

### (2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

広報誌にて貸館利用の案内を掲載しております。ホームページで、毎月貸し部屋予約状況を掲載できるようにいたしました。フリースペースは、予約なしで利用できることから、話し合いの場として使用されることもあり地域に周知されてきております。

ボランティア団体への声掛けを行い情報交換、課題等を共有し後方支援を行っております。

活動の発表の場として文化祭への参加を誘致いたしました。

2月に貸館団体の交流会を開催し、利用者との交流、貸館利用の案内を行い利用の周知を行いました。

### (3) ボランティアの育成及びコーディネート

デイサービスで、隣接する都筑ひよこ保育園の園児との交流会や、中学校の合唱部や吹奏楽部による合唱・演奏ボランティアを通じ、若い世代へと高齢者との交流の機会を設けました

ボランティア募集を広報誌やチラシなどで周知するとともに、貸館利用者への声掛けを行ってきました。結果、多くの団体、個人にボランティア登録をしてもらい活動へつなげていくことができました。次につながるよう継続的支援を行っていきます。

ボランティア活動をより積極的に行う目的の1つとしてシニアボランティアポイントの登録会を開催いたしました。16名の方に参加いただき、うち加賀原のボランティア登録者は13名、登録済が1名。デイサービスを始め自主事業、ボランティア団体などのボランティア活動を始めております。今後も後方支援を継続して行っていきます。

介護等の体験、施設見学を積極的に受け入れ、福祉保健活動、ケアプラザの周知を行い福祉の裾野を広げるよう努めてきました。平成29年度は大学生14名、中学生15名、小学生35名を受け入れました。

ボランティア勉強会(6/22)「美味しいコーヒーの淹れ方講座」開催。参加者17名。区社協、ケアプラザのボランティア登録も行いました。地域内外でボランティア活動を行っております。

『小規模多機能すいせん』へボランティアコーディネートを行い、ひよこ保育園園児との交流、貸館団体の人がボランティアを行うことができました。他施設へは交通手段がないことから難しくつなげにくい現状があり、また活動者は増えていますが、需要と供給が一致せず残念な結果となることもあり。ボランティアをする側の意欲をつながられるよう更に情報収集していく方針です。

### (4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

区役所、区社協と連携を取り、情報共有を行うことができた。池辺町地区へのそなえ委員会への参加等をしてきました。

地域で開催される会議などに積極的に参加し、地域の方の思いを聞きつなげていく事ができました。活きいきファームで作った大根を12月開催の三世代交流で使用する際のつなぎ役を担ってきました。

子育て支援では、池辺、佐江戸加賀原、川和エリアの活動者のネットワーク会議を開催しました。その結果、エリアのマップを完成しました。今後も年に2、3回振り返りと交流をしていくことを予定しております。

広報誌に地域の情報を積極的に掲載しております。夏祭り情報は特に好評です。麻雀台の寄付のお願いを掲載するとすぐに反応があり、地域の方が広報誌を読んでいることが実感でき、更に地域とのつながりを持つことができました。

ホームページは、細目に更新を行い自主事業の案内や様子、広報誌等をアップし身近に感じ参加しやすいよう努めております。また、メールでの申込みを始めました。ホームページを見ているという声を聴くことが増えました。

## 3 生活支援体制整備事業

### (1) 事業実施体制

地域の課題・目標を地域福祉保健計画と連動し、平成32年度までを大まかな目標と設定いたしました。

地域ごとにアセスメントを行い区役所・区社協とも連携し課題・目標シートを作成しました。

進捗状況については振り返りシート作成・活用し、区役所・区社協とも連携を図り圏域カンファレンスで共有しました。

区の課題・目標シートは2025年までの目標が提示されている為、今年度はそれを踏まえて参考にし、来年度は今年度の進捗状況を踏まえつつ取組める事柄を見出す

ようにしました。

ケアプラザ内の生活支援体制整備事業における知識、理解をより深めるために、区役所主催の生活支援体制整備事業研修に5職種全員が参加し、他職種が地域づくりに関わる研修等に積極的に参加するなどの研鑽に努めてきました。

圏域カンファレンスには毎回出席することで区役所や区社協の連携し、生活支援体制整備事業について共有する場も設けました。

コーディネーター連絡会と生活支援コーディネーター勉強会を通じ、区内や全市での取り組みについて共有と検討ができ、共通認識の機会を持ちました。

## (2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

今年度の取り組みとして、新規の総合・介護保険相談を地区別のマップに落とし込みをしてきました。この取り組みにより、地域ごとの特色、地域内でも自治会ごとで特色を可視化することができました。圏域カンファレンスでも参照・使用し、地域特性を共有する資料として活用いたしました。地域特性の変化の把握の為の手段として、また平成30年度の事業展開の為の重要な資料の意味も含め、次年度以降も継続していく予定です（今後は地域の特性・分析を行い各職種の事業や地域支援に活用予定）。

地域支援していきたいという事業所（薬局や病院など）のニーズを把握し、ネットワークの構築に努めてきました。一緒に地域のサロンや事業に参加し地域の事業所と地域活動団体とのつながりが持てる様になりました。具体的には老人クラブ主催のサロンなどに薬局や老健のリハビリ専門職と訪問し講座を開催。「川和小コミハウス健康フェスタ」ではコミュニティハウス・ヘルスメイト・保健活動推進員の団体と共に開催し、今回は薬局を招いて講話ブースを設けました。その結果、前年よりも倍の参加がありました。

また民生委員主催のサロンにはグループホームの関係者も一緒に参加しました。以後、グループホームの入居者も参加できるようになってきました。

サロンや体操教室など把握した際は見学・訪問し、アセスメントシートに入力しました。平成30年度も把握を継続して行っています。区役所の地区診断シート作成に参加しました。今後も継続して、区役所・区社協とも活動を収集して地域分析に取り組んでいく予定です。

## (3) 連携・協議の場

半期ごとの振り返りシートを作成したことで、各地区に合わせた連携・協議の場を再認識することができました。また区役所・区社協の協力により振り返りシートを用いて圏域カンファレンスで話し合う場を設定できたことで、ケアプラザ内への周知と区役所・区社協とも共有・共通認識を持てる場となりました。

川和地区ではサロンへの移動について支援が必要な状況となりつつあったことで、移動手段についての検討会（協議体）を2回実施いたしました。その結果介護タクシー事業所の協力によりお試して活用することとなりました。

## (4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

生活支援コーディネーターの勉強会や連絡会を通して、区役所主催のシニア☆スターに担当として企画段階から携わり講座へも参加しました。また区内ケアプラザ合同での講座：テイク10の企画にも携わることができました。区の課題・目標シートでの共通課題として人材の発掘（＝シニア☆スター）と育成（＝テイク10）につながりました。

## 4 地域包括支援センター運営事業

### (1) 総合相談支援業務

#### ① 地域におけるネットワークの構築

地域の自治会役員会やボランティア団体、民生委員児童委員協議会等々の会議や事業、茶話会、食事会等の活動に出席、情報交換をし、顔の見える関係づくりに努めると共に、各種団体の会合等に出席する時には「地域包括支援センターチラシ」「地域包括支援センター出前講座メニュー表」「認知症サポーター養成講座案内チラシ」や、地域交流自主事業チラシ等々、地域ケアプラザの機能や活動、事業などの情報を随時発信してきました。それによって、自治会や老人会等各種団体からの事業やイベント開催の依頼が大幅に増加しました。

また、「佐江戸加賀原ちょこっとボランティア」や「川和ふれあいたい」、配食ボランティア「はまゆう」などの活動がより充実する為に、ケアマネジャー等に常時情報を発信。地域包括支援センター職員を中心に地域ケアプラザ職員が各団体の定例会に出席し、情報の共有や、地域ケアプラザ職員より講座・研修等を開催しました。

地域包括支援センター主催の「民生委員とケアマネジャーの意見交換会」を池辺、佐江戸加賀原、川和の3地区で開催することなどを通じ、地域の社会資源やボランティア団体等のネットワーク構築にも大きく貢献しました。

ケアマネジャーに病院との情報交換会5包括で開催し25名参加していただきました。

#### ② 実態把握

自治会役員会やボランティア団体、民生委員児童委員協議会等々の会議や事業、茶話会、食事会等の活動に出席し、地域課題や利用者情報等を共有し、実態把握に従事してきました。また、地域包括支援センターの支援対象者以外であっても、しっかりと情報を受け止め、適切な支援機関へ繋いだり、必要な情報を発信するなどして、支援を必要とする人が制度の狭間に陥らないように取り組んできました。

具体例として、「佐江戸加賀原ちょこっとボランティア」や「川和ふれあいたい」「川和連合つながり♡ねっと」等の会合に参加したり、配食ボランティア「はまゆう」の会食に参加し、宅配時の対象者の状態等の情報を共有することで、支援が必要な対象者の情報を随時把握できるように努めてきました。

圏域会議を通じ、都筑区役所のソーシャルワーカー、保健師、都筑区社会福祉協議会職員との情報交換・情報共有を行い、要支援者の早期発見早期対応に努めてきました。

相談内容の分析は、生活支援コーディネーターと連携しながら、新規相談票をマップに落とし込むことで課題分析・抽出・把握に努めてきました。

#### ③ 総合相談支援

適切かつ、真摯に相談に対応し、緊急性や重要度が高いと判断したケースにはソフト変更をし、可能な限り優先的に対応・支援を実施してきました。

地域包括支援センター職員だけでなく、生活支援コーディネーターや地域交流コーディネーターが地域活動の中で受けてきた相談や地域情報、社会資源を部署間で共有し、相談援助業務に活かしてきました。また、介入が必要と判断したケースには積極的なアウトリーチ支援を実施してきました。早期発見早期対応することで状況の悪化防止に努めてきました。

ケースによっては、二人体制や担当職員の交代をするなど柔軟に対応し、ケースの課題解決に取り組んでおります。

既存の池辺出張相談も、前年度までは講座等を中心に本来の出張相談会の機能を

十分に果たしていなかったもので、見直し、また周知方法も変更しました。

新たに地域包括支援センターチラシを作成し、地域や各種団体に配布することで、地域包括支援センターの相談機能や役割の周知に努めてきました。

地域包括支援センターの相談対象でなくても、一旦相談を受け、適切な支援機関や団体への仲介を担ってきました。

介護保険サービスを含め、どの支援やサービスに繋がらないケースでも、放置せず、地域包括支援センターとしての継続的なフォローや、民生委員や「川和ふれあいたい」のような見守り活動を担う各種団体と連携し、援助が必要になった時に適切に支援再開できる体制に取り組んできました。

本人を支える家族が在宅生活を継続できるように総合的な支援を行っております。困難ケースには地域包括支援センター職員2名体制の訪問や区役所職員との訪問を受診への早期課題解決を行ってきました。アクセス・身体状況困難者には訪問相談を連続して行うなど、ケースによって柔軟に対応してきました。

## (2) 権利擁護業務

### ① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

社会福祉士が、三か月に一回程度、横浜市消費者生活センターに連絡し、担当地域内の消費者被害情報等を報告しております。横浜市消費者生活センターからは市内の被害状況情報や最新の詐欺手口等の情報を受取り、訪問の際、注意喚起を呼び掛けるための情報発信を実施することで被害防止を促進してきました。

また、地域包括支援センターが消費者被害等を含む権利擁護の為の相談窓口であることを普及する為に、新たに作成した「地域包括支援センターチラシ」を各種団体への配布やコンビニエンスストアなどの小売店に常設してもらうよう手配しました。

「川和つながり♡ねっと」等に出席し、地域包括支援センターが高齢者の権利擁護の携わる相談機関の普及に努めました。

以前、被害未遂に終わったケース等も、継続的なフォローを行い、被害の予防と対象者の不安の払拭に努めております。

都筑区社会福祉協議会あんしんセンターの役割や機能が周知され、必要な人が同センターに繋がるように、ケアマネジャーや地域住民に随時情報を提供しております。地域のボランティア団体が同センターの紹介をテーマに開催する事業への誘致の協力を実施いたしました。

5包括共催事業として、障碍児・者ご家族、関係機関向けに権利擁護講座を実施いたしました。

介護者の集いを二か月に一回開催。福祉用具や医療機関と協力し、介護者のレスパイトケアに努め。

司法書士・弁護士の無料相談会を開催し成年後見制度等の普及を行い、直接の弁護士の依頼へも繋ぎました。都筑区生活支援センター ころ野との共催事業（含む企画・運営）を開催しました。

### ② 高齢者虐待への対応

圏域会議を通じ、高齢者虐待、もしくは虐待を誘発する可能性の高いケースの対応について協議し、各職員の役割や分担、ケースの進捗状況を共有し、滞りない支援、介入に取り組んできました。

ケース支援に際しては、担当するケアマネジャー、各サービス事業者、都筑区役所と連携し、ミーティングを通じ、情報の共有とそれぞれの役割分担を取り決め、チームとしてケースの対応を実施。ケースの悪化防止と状況の改善に向けた支援を展開した。

「ケアネットつづき」へは主任ケアマネジャーが出席し、地域のケアマネジャーとの関係づくりを実施しております。高齢者虐待が疑われたケースには地域包括支



援センター職員が同行訪問を行い、解決に導きました。

ケママネジャーや支援機関職員向けの講座や勉強会までは至りませんでした。加賀原地域ケアプラザ内で開催した「権利擁護講座・座談会」へ地域のケママネジャーに情報を提供することにより、担当する利用者を同事業に誘致することができました。

### ③ 認知症

「認知症サポーター養成講座案内チラシ」を作成し、各種団体に幅広く配布しました。その結果、平成29年度は数多くの団体から依頼を受け、6回の認知症サポーター養成講座を開催。認知症の理解だけでなく、各種団体とのネットワークの構築にも繋げることができました。

特に、10月に2回に渡り開催した「都筑区郵便局員対象認知症サポーター養成講座」では都筑区役所、都筑区社会福祉協議会、都筑区他地域ケアプラザ、認知症カフェ連絡会等々協力し、都筑区内の郵便局員に認知症の知識を深めてもらうことはもちろん、関係機関とのネットワーク構築強化にも繋がりました。

また、今年度より2か月に一度の頻度で「介護者家族の集いを開催」。毎回アンケートや参加者の意見集約を行い、介護者のニーズに沿った事業展開を実施しました。参加者へのレスパイトケアを行い、介護者の心身の負担軽減と情報提供を行い、継続しての介護者・新しい介護者の参加に至っております。

さらに加賀原地域包括支援センター職員や、生活支援コーディネーターが区内、近隣区の「認知症カフェ」等を視察・見学し、情報を収集。その情報をもとに、認知症患者やその家族に合った認知症カフェの情報を提供、誘致、仲介を実施いたしました。

個別ケースにおいては医療機関への紹介、同行支援等を実施しております。

## (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

### ① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

「佐江戸加賀原ちょこっとボランティア」や「川和ふれあいたい」等のボランティア団体、「川和マスターズアカデミー」や元気ステーションから派生した介護予防事業サークル、各種サロン等々の地域の社会資源の情報を随時ケアマネジャーに情報提供し、必要に応じて、地域包括支援センター職員や生活支援コーディネーター、地域交流コーディネーターが仲介しました。

また、地域貢献や地域交流の機会や設けることを希望する薬局や病院、グループホーム等の医療・介護事業者と、関係性を構築したい地区社会福祉協議会や、居場所を求める老人会等の各種団体とのコーディネートを担当してきました。平成29年度は事業やイベントの共催や、サロンの実施、薬局による健康講話等を開催いたしました。

### ② 医療・介護の連携推進支援

加賀原地域ケアプラザ担当エリア内の病院、診療所、クリニック、薬局を訪問し、各医療機関との顔の見える関係づくりの構築に取り組んできました。

入退院に際しては、必要に応じて、地域包括支援センター職員が退院時カンファレンスの参加や、医療機関との連携を担い、滞りなく在宅復帰できるよう業務を実施してきました。

医療関係者との連携の為に医療連携会議に出席し、顔の見える関係性を深めてきました。

地域ケアプラザ協力医には、介護者家族の集いにて、勉強会の講師を依頼しました。また個別ケースでの相談、助言を得るなど協力体制を継続してきました。

川和歯科クリニックの歯科医師の協力を得て、介護予防普及啓発事業を開催しま

した。

他にもつづき病院やあやめ薬局など地域の医療関係機関や、企業の管理栄養士等と連携しながら事業やイベントを展開しました。

### ③ ケアマネジャー支援

ケアマネジャーからの相談には随時対応し、支援滞留ケースや困難ケースには、助言や提案、必要に応じて同行訪問やカンファレンスを実施することで、ケアマネジャー支援を実施してきました。

「新任・就労ケアマネジャー支援研修」を5地域包括支援センター共催（全3回）、3地域包括支援センター共催（全2回）で開催しました。

地域のケアマネジャー向けの介護予防ケアプラン作成・アセスメント方法の勉強会を2回開催しました。

## （4）多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

### 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

新体制の中、地域との関係性強化に注力する一方で対象となるケースの抽出ができず、地域ケア会議の開催までには至りませんでした。しかし、次年度開催に向けての地域や関係機関との協力体制は進展でき、次年度に地域ケア会議を開催する為の体制は着実に構築できつつあります。

また、当初の多職種協働という観点からは、今年度の新たな試みとし、都筑区消防署との連携事業を開催しました。救急隊員とケアマネジャーの意見交換会を、葛が谷地域ケアプラザ、中川地域ケアプラザと共催いたしました。また、主任ケアマネジャーが消防・救急職員に介護保険制度の講座を行うなど、それぞれの役割や機能を知ることによって連携を深めるための取り組みを行ってきました。

## （5）介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

### 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

要支援者に対し、自立支援へ導く介護予防ケアプランの配布、実施を行い、介護サービスからインフォーマルサービスへの移行に繋げてきました。

委託事業所に対しての介護予防ケアプランのチェックの実施や、可能な限りのサービス担当者会議への出席をしました。

インフォーマルサービス冊子の配布、新しい地域でのインフォーマルサービスの収集を行い、随時ケアマネジャーや利用者、地域住民へ配布や情報の提供をし、参加を促してきました。

介護予防普及啓発事業は、「フレイル講座」「バランス講座」「3B体操」など様々な事業を展開。事業は保健活動推進委員等々連携をしながら、地域の人材発掘、育成にも尽力し、いくつかの事業は、現在自主化に向けてアプローチを継続中です。

## （6）一般介護予防事業

### 一般介護予防事業

老人会や自治会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、コミュニティハウス、ボランティア団体、サークル等々が開催する体操教室等の介護予防の普及啓発をしてきました。

介護予防普及啓発事業として栄養・口腔・認知症・コグニサイズ（地域ケアプラザで4回都田コミュニティハウスで2回）の講座を開催しました。池辺地区ではバランス講座を毎月開催し、介護予防への促進活動を行い、参加者も増加傾向です。佐江戸

地区では元気づくりステーション（生きいきファーム、さわやかステップ）に毎回参加し、地域の高齢者の居場所づくりと介護予防促進を図っております。運動指導員等の講師手配等をコーディネートし、介護予防を普及啓発する為の各種事業・活動の支援を実施しております。

## 5 その他

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

### 施設の適正な管理について

#### (1) 施設の維持管理について

ご利用者にとって快適・安全・安心な施設であることが、第一と考えております。定期的に施設点検、設備点検を行っております。

施設維持管理に関して保守点検業務を適正に遂行できる実績のある業者の中から業者選定し、適正価格で業務委託・業務遂行できるよう努めております。

空調設備、電気設備、給排水設備・消防設備等、機械設備の保守点検及び清掃業務が仕様書に基づいて適正に行われるように取り組んでおります

物品管理は、管理簿にて増減を含めて、財産としてしっかりと管理しております。

建物及び建物設備に関しては、定期的に巡回し劣化部位の有無の確認、関係機関へ適時報告し協議しております。

また、職員全員が日常的に、施設ならびに周辺地域の維持管理と美化に努めます。以上の取り組みを行うことで、地域の方が気持ちよく、快適な施設利用に繋げられるよう努めております。

#### (2) 効率的な運営への取組について

指定管理料は、市民の大切な税金であることを十分認識し、経費節減に努めております。具体的には下記の取り組みを行っております。

効果的な費用の活用・消耗品へのコスト削減・再生エネルギー利用について普及啓発を行い、職員の意識改革を促進しております。

節電、節水に取り組んでおります。

冷暖房の適正温度化（冬季：18～23度・夏季：28度）を実施しております。

コピー用紙の裏面を再利用するなど、資源の再利用・再活用により経費削減に努めております。

また、職員の指導・育成を充実し、支援・サービスの向上を目指し、効率的な人員配置を行ってまいります。

### (3) 苦情受付体制について

ご利用者のご希望やニーズにお応えするために、事業ごとにアンケートの実施又、利用者アンケート調査・ご意見箱で行っています。

苦情への対応に対しては、施設内にご意見箱設置・窓口・各会合で寄せられた苦情に対応します。

施設に苦情受付担当者、苦情解決責任者（所長）を置き、概ね14日以内に解決するように努めています。

なお、苦情受付担当者・苦情解決責任者の氏名を公表しています。

施設以外の申し出先として第三者委員、国民健康保険団体連合会、都筑区役所、横浜市福祉調整委員会、横浜市市民利用施設ご意見ダイアルの連絡先を施設内に掲示しています

### (4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

夜間休日の警備は、警備会社へ業務委託しております。

緊急事態発生時は、関係機関への報告にて連携して対応しております。

地域との連携としては、日頃から情報を共有し、不審者情報や被害発生時の対応に協力を得られるよう努めております。

防災への取り組みとしては、「災害時対応マニュアル」に基づき対応いたします。防火管理者を中心に、年2回定期的に消防防災訓練を実施しています。又、地域の防災訓練へ参加し災害時を予測した訓練から、特別避難場所としての役割を職員間で把握しております。（職員間で、備蓄物資の場所も把握）

職員間でも、緊急連絡網を作成し活用しております。

緊急電話番号を区役所に報告し、連絡を取れる体制をとっております。

災害時用の防災用品を法人としても、最小限準備しております。

### (5) 事故防止への取組について

事故防止において、リスクマネジメントの視点で取り組みます。

業務手順の徹底と、発生時の速やかな報告・対応、誠意ある対応に努めるとともに、定期的にヒアリング研修・事例検討会等を行い、事故防止・再発防止に努めております。

年間2回「安全運転講習会」を開催し、運転する職員全員が安全運転に努めております。

### (6) 個人情報保護の体制及び取組について

当法人では、個人の権利・利益を擁護する観点から、個人情報保護ルールを定めて取り扱っています。

新年度と新入職員採用時、個人情報研修を行っています。

個人情報はFAXを行わず、FAXする内容・枚数・行き先をダブルチェックしています。又、郵便物も同様にダブルチェックを行っています。

定期的に保護マニュアルに基づき職員研修を行い、個人情報漏洩防止チェックシートで予防意識を高めるように努めています。

パソコンの管理においては、全てにパスワードの設定とセキュリテイロックを掛け、記憶媒体（USB等）を使用取りやめています。

訪問時は私用のバックは中止し、訪問専用のバックを使用しています。又、自転車等での訪問時は肩掛けバック又は、ネットを利用し個人情報保護に努めています

(7) 情報公開への取組について

加賀原地域ケアプラザの「事業計画・報告・予算書」等の資料を地域住民がいつでも閲覧できるよう配置いたします。

横浜市の「情報交換条例」の主旨に則り、適切な情報開示に取り組めます。

(8) 人権啓発への取組について

1回/年所内にて関わる職員全員参加で、権利擁護研修を実施いたします。

他、接遇等の研修も年1回は行い、人権尊重に努めるよう努めていきます。

(9) 環境等への配慮及び取組について

光熱費の節減、適切なゴミの分別やリサイクルに取り組むことで廃棄物の減量に取り組めます。

また、加賀原地域ケアプラザでは太陽光発電設備を設置することで、電力の節減に取り組んでおります。

## 【介護保険事業】

### ●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

#### 《職員体制》

- ・主任ケアマネジャー：2名
- ・社会福祉士：1名
- ・看護師：平成30年4月1日より配置

#### 《目標に対する成果等》

事業対象者や要支援者の状態の悪化、意欲の低下を誘発しないように、個々の主体性を重視した目標指向型の介護予防ケアマネジメントを実施してきました。

介護保険サービス等に偏らない、地域の特性や社会資源、インフォーマルサービス等を活かした、個別性を考慮した介護予防ケアプランを作成してきました。

委託事業所に対しては、しっかりとアセスメントや介護予防ケアプランのチェックを行いました。また、インフォーマルサービスや社会資源等の情報提供や、地域の民生委員や事業、イベント、ボランティア団体等の仲介を担ってきました。

結果として、委託事業所であるケアマネジャーも、地域の社会資源をより一層把握でき、また介護保険に傾倒しない、利用者の自立支援の為に介護予防ケアマネジメントが実施できるようになってきました。

#### 《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

#### 《その他（特徴的な取組、PR等）》

住み慣れた地域でいつまでも元気でその人らしく暮らしていけるように、利用者や家族の生活を支えます。

地域包括支援センターや地域ケアプラザの周知を目指すために、独自の地域包括支援センターチラシや、事業・イベントメニュー表を作成、配布し、必要な人に必要な情報が届くように取り組んでいきます。

#### 《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
11	12	23	30	28	27
10月	11月	12月	1月	2月	3月
26	25	23	21	23	21

●居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者（介護支援専門員）：1名（常勤）
- ・ 管理者以外の介護支援専門員：2名（常勤）

《目標に対する成果等》

公正・中立にサービス提供に努めてきました。また、利用者、およびその家族の意向を尊重し、適切なケアプランの作成、サービス提供に取り組みます。加えて、介護保険サービスだけではなく、利用者や家族の生活を支える為に活用ができるインフォーマルサービス等の社会資源等の情報も適切に提供しました。それにより、利用者家族の意向を尊重しつつ、自立支援を促進するケアマネジメントを実施してきました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

個人情報の保護に留意しながら、必要な情報を適宜提供していきます。  
併設する地域包括支援センターと連携しながら、課題の早期発見早期対応に努め、適切な支援・サービスに繋げていきます。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
66	63	63	61	60	55
10月	11月	12月	1月	2月	3月
58	58	64	62	55	67

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 口腔機能向上加算
- 入浴介助加算
- サービス提供体制加算Ⅱ
- 処遇改善加算Ⅰ
- 個別機能訓練加算

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 【通所介護】 1割負担分
  - （要介護1） 788円
  - （要介護2） 930円
  - （要介護3） 1079円
  - （要介護4） 1227円
  - （要介護5） 1374円
  
- 【認知症対応型通所介護】 1割負担分
  - （要介護1） 1072円
  - （要介護2） 1188円
  - （要介護3） 1305円
  - （要介護4） 1422円
  - （要介護5） 1538円
  
- 食費負担 700円

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 9:30～16:35

《職員体制》

- 生活相談員（5人）常勤5
- 介護職員（14人）（そのうち介護福祉士7人）常勤4・非常勤3
- 看護師（4人）常勤1・非常勤3

《目標》

- 利用者・家族等への「配慮」に努め、安心・信頼感の構築を目指します。
- 職員の指導・育成に取り組むことで、認知症の方への対応力の向上を目指します。
- 「介護技術」「メンタル」「接遇」の質の向上を目指します。
- ボランティアとの交流の充実を目指します。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- レクリエーションの充実（20種類以上）しております。
- ボランティア（約3組/月）の受け入れあり豊富です。



**通所介護**

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
585	646	638	666	632	683
10月	11月	12月	1月	2月	3月
700	670	619	539	613	697

**認知症対応型通所介護**

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
111	105	109	158	144	155
10月	11月	12月	1月	2月	3月
119	111	111	92	80	88

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 運動器機能向上加算
- 口腔機能向上加算
- サービス提供体制加算Ⅱ
- 処遇改善加算Ⅰ

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分
 

（事業対象者）	1766円
（要支援1）	1766円
（要支援2）	3621円
- 食費負担 700円

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載してください。

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 9:30~16:35 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

- 生活相談員（5人）常勤5
- 介護職員（14人）（そのうち介護福祉士7人）常勤4・非常勤3
- 看護師（4人）常勤1・非常勤3

《目標に対する成果等》

利用者・家族等への「配慮」に努め、安心・信頼感の構築に取り組んできました。  
 また、職員の指導・育成に取り組むことで、認知症の方への対応力の向上を目指します。さらに職員の「介護技術」「メンタル」「接遇」の質の向上を目指します。  
 そして、地域ケアプラザのデイサービスとしてボランティアとの交流の機会をたくさん設けました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- レクリエーションの充実（20種類以上）しております。
- ボランティア（約3組/月）の受け入れあり豊富です。
- 家族も参加できる夏祭り等イベント企画しております。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
122	114	108	101	88	96
10月	11月	12月	1月	2月	3月
84	85	69	69	58	80

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
シニアスター養成講座	目的：地域の人材育成 内容：主体的に活動できる人材を育成し、新たな地域資源のたちあげや既存の活動グループの活性化を図る。講義やワークショップ、区内や区外の地域活動グループの見学により、どのような活動をしたいかを深めていく。	下半期6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気づくりステーション「活きいきファーム」	目的：生きがいのある活動に取り組む事で、健康に過ごすことを目的とする。 内容：農作業や他者との交流を通して、認知症予防・介護予防を行う。また活動前に体操を行っている。	年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気づくりステーション「さわやかステップ体操」	目的：ロコモ体操やスクエアステップ体操に取り組むことで、健康に過ごすこと。 内容：認知症予防・転倒予防に関する体操を実施し、健康づくりを目指す。	年12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
サロンふじみの「認知症サポーター養成講座」	目的：認知症に対する理解の普及啓発。 内容：パワーポイントでの説明や寸劇により認知症の症状・対応・質疑応答	年2回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
川和リハビリ教室	目的：高齢者・中途障害者の閉じこもり予防と社会参加や交流 内容：血圧測定・軽体操実施。月毎の行事として、お花見・軽スポーツ・七夕・など実施	年8回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
川和マスターズアカデミー	目的：健康チェック・健康情報の発信 内容：体重・身長測定・体組成計による測定・BSチェッカー・乳房自己触診指導・立ち上がりテスト・薬剤師や管理栄養士による講話	年3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域遊学「認知症サポーター養成講座」	目的：認知症に対する理解の普及啓発 内容：パワーポイントでの説明や寸劇により認知症の症状・対応・質疑応答等実施	年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
はまゆう	目的：配食ボランティア団体との情報交換を通じて地域支援に繋がる。 内容：地域でお暮しの高齢者の様子や近隣の高齢者の様子など、包括支援センターと配食ボランティアとの情報交換・情報共有をすることで地域支援に繋がる。また、個別ケースにおけるインフォーマルサービスとして、見守りや配食依頼を活用できている。	年12回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者の集い	目的：在宅介護支援と介護情報提供・共有 内容：協力医による健康相談・福祉用具の使用方法・情報交換茶話会	年5回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
池辺出張相談会	目的：地域に出向いての相談窓口 内容：介護保険の相談や在宅生活での日常課題	年12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
池辺バランス講座	目的：認知症・ロコモ予防 内容：運動機能訓練士による介護予防体操実施	年11回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者サロン「和楽路」	目的：高齢者の引きこもり予防、居場所づくり、友達作り。 内容：茶話会。趣味を楽しんだり、おしゃべりや、園芸・野菜づくりなど実施。	年11回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
障害児・者余暇支援活動べるえきつぷ	目的：障害のある方の交流の場、居場所づくり。内容：料理や軽工作	年8回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育て支援すくすくプラザ	目的：子育て中のお母さんの孤立予防、親子の居場所づくり、仲間づくり、子育て相談の場 内容：参加自由なサロン、子供たちはのびのび遊び。お母さんたちはゆっくり情報交換	年12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
料理Withパン教室	目的：若い世代（30～50代）の方々が参加しやすい講座 内容：パン作りをきっかけに地域に出る機会となった	年7回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康麻雀	目的：交流の場や居場所づくり 内容：掛けない・飲まない・吸わないの健康マーじゃん	年6回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア講座「美味しいコーヒーの淹れ方教室」	目的：ボランティア育成・担い手の発掘・地域活動に参加するきっかけづくり。内容：地域の事業所のインストラクターによる、コーヒーについての基礎から、淹れ方までの講義と実技。ボランティアについての講義。ボランティア登録を推進	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
シニアボランティアポイント研修	目的：ボランティア登録、育成 内容：シニアボランティアポイント登録研修	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
小学生夏休み講座映画鑑賞	目的：夏休み小学生の居場所づくり、ケアプラザの周知 内容：「犬と私の10の約束」映画鑑賞	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
小学生夏休み講座父子のパン教室	目的：夏休み小学生の居場所づくり、お父さんの地域参加のきっかけづくり 内容：パンづくりをとおしての親子や参加者同士の関係づくり	年1回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
薬膳料理試食会	目的：家庭料理に薬膳の知識を取り入れて健康寿命を延ばす。 内容：薬膳についての講話、家庭料理に取り入れ方、試食	年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
フラワーアレンジメント	目的：多世代交流と仲間づくり 内容：フラワーアレンジメント教室	年5回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
父親子育て教室	目的：父親の育児参加、父親の地域へ出るきっかけづくり 内容：自己紹介、一緒にできる体操、働き方を変えてみる等の講話	参加者なし

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティアさんによる第4回文化祭	目的：地域の方がつくる文化祭。貸館団体の方の作品・演技の発表の場 内容：登録団体の方々の作品展示・演技発表や中学生の合唱・地域作業場のカフェなど	年1回



# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
佐江戸ふれあいサロン	目的：赤ちゃんから未就学児を対象に地域との交流や親子の交流 内容：手作りの食事や子育て相談実施。ケアプラザからは、子育て情報提供や絵本の読み聞かせ等行っている。	年8回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア交流会	目的：ボランティア団体間の情報交換 内容：ボランティアの方々の情報交換・交流会	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
駅弁を食べる会	目的：一人暮らし高齢者の引きこもり予防と見守り活動 内容：駅弁業者の社会貢献として駅弁提供（100食ほど）をうけ、駅弁を楽しみながら地域との交流会	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
下荻根公園で遊ぼう	目的：赤ちゃんから未就学児親子を対象に地域との交流や親子の交流 内容：外遊び実施、夏は水遊び・11月はカレーライスを楽しめる	年1回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
池辺健康のつどい	目的：地域で暮らしている独居高齢者や中途障害者の閉じこもり予防や、社会参加・地域との交流 内容：お花見・七夕など季節ごとの行事を中心に交流を実施している。	年5回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
お楽しみ会「介護保険について」	目的：介護保険制度やケアプラザの役割の説明 内容：地域の高齢者にむけて、介護保険制度の説明とケアプラザの役割を講話	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者クラブにて「包括支援センターについて」の講話	目的：包括支援センターの周知 内容：包括支援センターの役割と機能について説明。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護保険制度についての講座	目的：ちよこっとボランティアさん対象に介護保険制度説明 内容：介護保険制度と在宅サービス、ボランティア活動と訪問介護の関連等についての説明	年1回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
シンフォニックサロン「認知症サポーター養成講座」	目的：認知症に対する理解の普及啓発 内容：キャラバンメイトと共に認知症サポーター養成講座開催	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
つづき亭「ロコモ予防・健康相談」	目的：ロコモ予防講座と体操の普及啓発 内容：ロコモ予防についての講座と体操、質疑応答。グランドゴルフ・長座位体前屈測定	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防普及啓発強化事業「バランス講座」	目的：介護予防 内容：楽しみながらロコモ予防体操	年6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防普及啓発事業「3B体操」	目的：ロコモ、認知症予防 内容：3つのB（ボール・ベルダー・ベル）を使い脳と身体を動かす。音楽に合わせてリズム体操	年1回

# 平成29年度 自主事業報告書

## 横浜市加賀原アプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護予防普及啓発事業「フレイルになっていませんか」	目的：誤嚥性肺炎予防と低栄養ケア講座 内容：身体と心の虚弱を防ぐために必要な口腔ケアと栄養管理にスポットをあてて健康寿命をのばしていただくための講話	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸館団体交流会	目的：登録団体同士の交流とケアプラザの説明 内容：ケアプラザの設置目的、福祉保健活動についての講話。利用に関するの困り事や要望、などグループワーク	年1回

# 平成29年度 自主事業収支報告書

施設名 **加賀原地域ケアプラザ**

事業名	①主な対象者	自主事業決算額								
	②参加人数	総経費	収入			支出				
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他		
下藪根公園で遊ぼう	乳幼児	0	0	地活						
	219人			包括						
				生活						
佐江戸ふれあいサロン	乳幼児	0	0	地活						
	213人			包括						
				生活						
池辺健康の集い	高齢者	0	0	地活						
	103人			包括						
				生活						
お楽しみ会「介護保険について」	高齢者	0	0	地活						
	75人			包括						
				生活						
加賀原クラブ「ケアプラザ地域包括支援センター」について講座	高齢者	0	0	地活						
	13人			包括						
				生活						
ちょこっとボランティア「介護保険制度について」の講座	地域の方	0	0	地活						
	18人			包括						
				生活						
シンフォニックサロン「認知症サポーター養成講座」	高齢者	0	0	地活						
	21人			包括						
				生活						
つづき亭「ロコモ予防・健康相談」	高齢者	0	0	地活						
	15人			包括						
				生活						
介護予防普及啓発強化事業「バランス講座」	高齢者	0	0	地活						
	66人			包括						
				生活						
介護予防普及啓発事業「3B体操」	高齢者	0	0	地活						
	24人			包括						
				生活						
介護予防普及啓発事業「フレイルになっていませんか」	高齢者	0	24797	地活	0	0	20000	4797	0	
	33人			包括						24797
				生活						
貸館団体交流会	一般	0	3580	地活	0	0	0	3580	0	
	45人			包括						
				生活						

# 平成29年度 自主事業収支報告書

施設名 **加賀原地域ケアプラザ**

事業名	①主な対象者	自主事業決算額								
	②参加人数	総経費	収入			支出				
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他		
シニア☆スター養成講座	地域の方	0	0	地活						
	75人			包括						
				生活						
元気づくりステーション 「活きいきファーム」	高齢者	0	0	地活						
	15人			包括						
				生活						
元気づくりステーション 「さわやかステップ体操」	高齢者	0	0	地活						
	99人			包括						
				生活						
サロンふじみ「認知症サポーター養成講座」	高齢者	0	0	地活						
	46人			包括						
				生活						
川和リハビリ教室	高齢者	0	0	地活						
	91人			包括						
				生活						
川和マスターズアカデミー	高齢者	0	0	地活						
	82人			包括						
				生活						
地域遊「認知症サポーター養成講座」	高齢者	0	0	地活						
	52人			包括						
				生活						
はまゆう	高齢者	0	0	地活						
	178人			包括						
				生活						
ちょこっとボランティア	地域の方	0	0	地活						
	115人			包括						
				生活						
介護者の集い	介護者	0	10605	地活		0	0	0	10605	
	54人			包括						10605
				生活						
池辺出張相談会	高齢者	0	3998	地活		0	0	0	3998	
	1人			包括						3998
				生活						
池辺バランス講座	高齢者	0	40092	地活		0	0	40092	0	
	144人			包括						40092
				生活						
高齢者サロン和楽路	高齢者	100	27975	地活	9375	18600	0	0	27975	0
	88人			包括						
				生活						
障害児余暇支援活動 べるえきつぷ	障害児	300	33002	地活	19702	13300		8909	24093	0
	78人			包括						
				生活						
子育て支援すくすくプラザ	乳幼児		15181	地活	11481	3700	0	8909	6272	0
	250人			包括						
	0~300			生活						
料理withパン教室	地域の方	1500	92980	地活	480	92500	0	38976	54004	0
	83人			包括						
				生活						
健康麻雀	地域の方	0	0	地活						
	48人			包括						
				生活						

## 平成29年度 自主事業収支報告書

ボランティア講座美味しいコーヒーの淹れ方教室	地域の方	0	地活						
	17人		包括						
			生活						
シニアボランティアポイント研修会	高齢者	0	地活						
	16人		包括						
			生活						
小学生夏休み講座映画鑑賞	小学生	27872	地活	27872	0	0	0	27872	0
	38人		包括						
			生活						
小学生夏休み講座「親子パン教室」	地域の方	7838	地活	3838	4000	0	5568	2270	0
	17人		包括						
			生活						
薬膳料理試食会	地域の方	9869	地活	9869	0	0	0	9869	0
	32人		包括						
			生活						
フラワーアレンジメント教室	地域の方		地活						
	74人		包括						
			生活						
親子育て教室	地域の方		地活						
			包括						
			生活						
ボランティアさんによる第4回文化祭	地域の方	5989	地活	5989	0	0	0	5989	0
	260人		包括						
			生活						
ボランティア交流会	地域の方	12217	地活	12217	0	0	0	12217	0
	19人		包括						
			生活						
駅弁を食べる会	高齢者	0	地活						
	150人		包括						
			生活						